

熊本地震 学校日記 vol.8

EARTH隊員による講話 5/18(水)



美咲野小だより

5月

NO. 9
H 28. 5. 20
大津町立美咲野小学校
文責：草場ルミ子

5月18日(水) 17:30からパソコン室を会場に講話をしていただきました。講師はEARTH隊員で姫路市立高浜小学校の三村理加養護教諭と兵庫県教育委員会播磨東教育事務所の防災教育専門推進員の藤田美保指導主事のお二人でした。(昼に兵庫県を出発し、新幹線で熊本入り。レンタカーで美咲野小へ直接おいでいただき、この時間となりました。) 急なご案内と参加が難しい時間帯でしたので、保護者の皆さんの参加は21名、職員27名、県関係3名の合計51名参加の講話でした。三村先生は、「東日本などいろいろなところに行きましたが、保護者も一緒に話を聞いてもらう機会は初めて。感動しました。」と言って下さいました。

また、参加された保護者の皆さんにも職員にも大変好評でした。もっとたくさんの保護者の方が参加できる日時や場所を工夫して、このような講演会を開催したいと考えています。私の方からも町や県に要望していきます。三村先生からは兵庫県教委にも「このような要望があったことを伝えます」と言っていただきました。

以下に、講話の概要をお伝えします。また、当日渡された資料と、当日のプレゼンで使われた資料も一緒にお届けしたいと思います。

いつも紙媒体ばかりですが、美咲野小学校のHPにも随時アップしておりますので、そちらもご覧下さい。



阪神大震災のとき、学校は避難所になりました。学校再開を始めようとしたとき「子どもたちは元気だし、自分たちは住むところもないのだから、学校再開は急がなくてもいいのではないか。」との意見がたくさんあり、学校再開が遅れたそうです。しかし学校再開が遅くなったことは結局子どもの心のケアという面からはよくなったとのこと。「子どもの心のケアの大切さ」が言われ始めたのは、阪神大震災の反省を受けて・・・とのことでした。阪神も東北も

年度末に近いこともあり、年度初めに起きた熊本震災とはまた状況が違ったそうですが、学校再開をはじめ日常を取り戻すことはとても大切なことだそうです。

阪神大震災から21年たっても、まだ解決していないこともたくさんあるとのこと。地震が起きて間もない「今」の心のケアの大切さを思いました。

心の傷は、どんなものかは見えないけれど、大なり小なり誰でも心の傷はある。家族が離れたり、避難所で生活したり、車中泊したり・・・などの非日常があるのだから当然のこと。なぜ心のケアが必要なのか？心の傷は気付かないから。阪神大震災から11年後にとったアンケート結果についての説明もありました。震災があつて間もない頃に、いろいろな人に話をするなど、たくさん向き合った人の方が、そのとき向き合うことを避けていた人より、11年後はストレスが少ないという調査結果もあるとのこと。この時期に、同じ話でもいろいろな人とたくさん話すことはとても大切なことだと言われていました。

心のケアとしては「ストレス反応」を自然に出すことが大切。自分の中に治そうとする力がある。この地震を無かったこととして、記憶から消してしまわないで、記憶からなくなるのではなく、心が整理される(「あの時は大変だったね」と落ち着いて思い出せる。)ことが大切。そのためには、日常の生活を整えることや家庭と学校が想いを同じにして協力しあっていくこと、複数でサポート体制をとることも大切とのことでした。

「怖がること」は「助かりたい」と思うことだから、それは自然な反応。おうちでも、右のようなことを準備したり、話し合ったりしておけば子どもたちの安心につながるのでは・・・という提案もありました。

また、子どもたちの心のケアをするためには、保護者自身が元気がないといけな。保護者自身がアンケート(パワーポイント資料にあります)をやってみるなどして、自分の傷を知ることや、自分のセルフケア力をアップさせることが大切とのこと、リラクゼーションの方法なども実技をまじえて紹介していただきました。(私の聞き取りを整理したのでニュアンスが微妙に違うところもあると思いますが、ご了承下さい。)

擦り傷をおったとき、膿が出てきたり、かさぶたができたり、直ってからも傷跡は薄く残っているけれど、その傷跡を見ても触っても「あの時あんな転んであんな怪我したなあ・・・痛かったなあ」と冷静に振り返ることができるようになれば大丈夫。心の傷も同じ。言い換えれば自分の中で、向き合い、整理できることが大切だということ ～擦り傷を例に～



～例～

★家で寝るときの安全策

・枕元に一人一人懐中電灯を置いておく

★何かあったときの集合場所

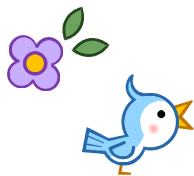
・〇〇に逃げる。□□に集まる。などを決めておく。

★とにかく水は備蓄する。等



美咲野小だより

これまで「美咲野小だより」へのお返事を六八世帯のおうちからいただきました。学校再開に向けての私たちの動きは、教職員として当然のことだと思っておりましたが、「先生たちも被災されたのに子どもたちのために学校再開のために尽力下さりありがとうございます。」という言葉をたくさんの方から頂き、こちらの方こそ大変ありがたう思います。また「読んで涙が出ました。」と書かれていた保護者の方もたくさんいらっしゃいました。私の方こそ、皆さんの思いにふれ、涙が出ました。現在、皆さんからのお返事をまとめているところですが、お名前はおまじろんのこと個人が特定できそうな情報は絶対出しませんのでご安心下さい。一部文面を変えたり、途中省略したり、複数の方の文章を合わせる場合がありますので、その点はご理解下さい。



第8条 体験で
得られる本物
知と心
～家庭教育十ヵ条より～